

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	練馬区立こども発達支援センター 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和8年1月20日		～ 令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	126	(回答者数) 103
○従業者評価実施期間	令和8年3月2日		～ 令和8年3月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種が連携を図り、お子さん一人ひとりの発達を支援している。	チームでお子さん一人ひとりの発達段階や課題に合わせた支援方法を立案・実施している。	お子さんに関わる専門職がそれぞれの視点でアセスメントを行い、年齢や発達段階に合わせた多様な支援に生かしていく。
2	地域ネットワークの中で、お子さんご家庭を支援する役割を担っている。	区内の発達支援に関わる機関(保育園・幼稚園・小学校・子ども家庭センターなど)との連携を進めている。	より連携を深め、通所されているお子さんの支援だけではなく、保護者・家族支援、地域支援にも取り組んでいく。
3	保護者の方がお子さんのことを正しく理解し、よりよい家庭での関わり方や支援の選択ができるようになることをねらいとして、保護者学習会を開催している。	専門職からの講座では、動画配信とし「好きな時に・何回でも内容を確認できる」ようにしている。 就園・就学については、保護者の方の就園・就学後の不安に少しでも見通しが持てるように「先輩お母さん」から体験談をお話いただく機会を設けている。	区の事業として行っている、きょうだい児支援・ペアトレーニング・一時預かり・就学相談の説明会などの情報提示にも力を入れ、保護者支援の一環としていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者の方からの相談を十分に受けられていない。	就労家族の増加により、お子さんの療育時間内に相談したいという要望があるが、個別面談に対応できる職員数に余裕がない。 クラスとクラス間の時間が30分であるため、クラス後に保護者の方とお話をする時間を十分に取ることが難しい。	保護者の方のニーズを把握し、センターにおける相談窓口の明確化など、センター全体で個別面談の調整などの体制を考えていく必要がある。
2	児童用トイレにドアがないため、プライバシーが保たれない	一時的に見えないようにしてきたが、ドアがないことには変わりはなく、口頭で保護者の方からのご意見は出ていた。	ドアならびに便器の年長向けの大きさのものを設置する検討を進めていく。
3	今後の地域支援に向けた職員のスキルアップ	業務が多岐にわたること、チームが勤務日・勤務時間が異なる職員で構成されていることから、組織として職員のスキルアップへの取り組みが十分ではない。	人材育成の体系化のための取り組みを始める。 多岐にわたる業務の洗い出しや、各種マニュアルの見直し、職員研修の充実を図る。